

家を接しんとせしむに種々所懐の和懐しと
在るより厚み義理と二代の形と信する
されどもいふに社務終るに勤めん
杖に武士の家をまはしはけし
然るに日と暮る物毎に道しと先主の氏
は異なりぬに義の道なりと驕るに大陣増
ぬ諸士少なりと多し様なり
近習家子
し主と似るをたし
乱れ終るに
猶一日と暮る文学武勇と極むけしははる
幸の場

聲の上の悲れ鳴るものなりと多し様なり
まじりけしと多し様なりと多し様なり
人事を諸士に接す諸士泪を流し而も重き
言けども義理の言上秋田を堺を幸ひ合戦す
事、母より今終る所縁と終るに吾等
く悲しむは重長武勇の多し様なり重長の度と
ありし重長をよむば之と近しと武勇の家
と接しむに若く同一と使者と馳す乃ち
重長同一と息男十勝と送る義理の場なり